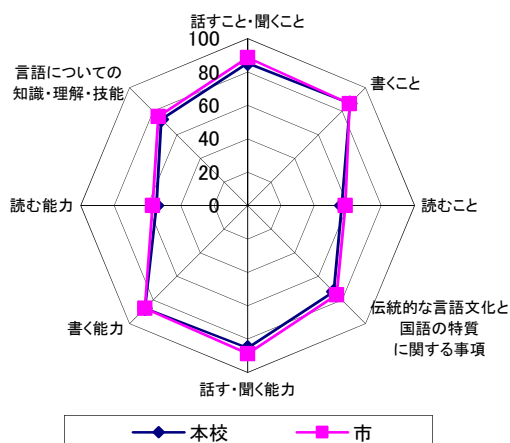


H30年度 宇都宮市立若松原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	85.3	88.7	89.1
	書くこと	86.7	86.4	64.2
	読むこと	56.4	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.9	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	85.3	88.7	89.1
	書く能力	86.9	87.1	66.7
	読む能力	54.6	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	73.1	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

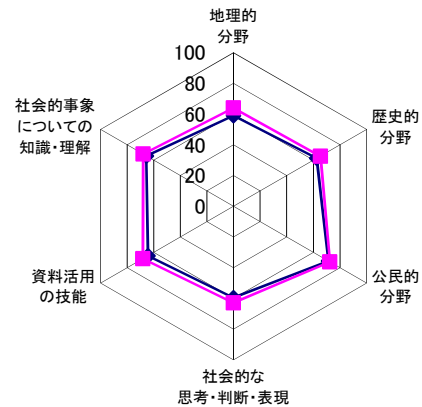
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域別では市平均を3.4ポイント下回り、今後のさらなる指導の必要がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「話すこと」では、全校をあげて1分間スピーチに取り組んできた。3年目に入り、成果が表れている。今後も継続し、話す力を伸ばしていく。 ・「聞くこと」においては、単元末テストで聞き取りテストを実施し、聞く力の向上に努めてきたが、今後も継続して取り組んでいく。 ・グループでの話し合い活動を発展させ、クラスでの話し合いを積極的に実施する。
書くこと	○領域別では市平均をわずかが上回り、指導の成果が表れている。	・すべての教科、領域において「話す」「聞く」「書く」といった言語活動に取り組んできた成果が顕著に表れた結果となった。今回の結果を踏まえ、言語活動を取り入れた授業を充実させていく。 ・平成30年度も特に「理由をあげて説明すること」に重点的に取り組んできた。また、授業の振り返りの場面で書く活動を取り入れてきた。継続して、取り組んでいく。
読むこと	●領域別で2.1ポイント市平均よりも下回った。徐々に生徒の学力は上がってきているが、今後もさらに指導の工夫が必要。	・毎日実施している朝の読書が定着し、「読むこと」の学力を下支えしている。今後は、必読書の説明文をブックトーク等で紹介し、小説以外の読書へと幅を広げていく。 ・学習の振り返りを通して、学習材の要点をまとめたり、学んだことを簡潔にまとめたりする活動を取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市平均は下回ったが、参考値を0.9ポイント上回り、学力向上の成果が見られる。	・漢字の読み書きについては、毎時間の小テストで定着を図ってきた。他の教科にも依頼し、文章表現において漢字を使うよう働きかけ向上を図っている。 ・普段の生活において、言葉遣いの指導を進め、敬語の理解度を上げていく。 ・読むことの学習材を扱う際に、文脈の中での語句の意味を取り上げ、語彙指導を進める。

H30年度 宇都宮市立若松原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	59.1	64.0	50.9
	歴史的分野	62.5	65.3	57.1
	公民的分野	71.3	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	59.5	62.9	52.3
	資料活用 of 技能	64.4	68.2	58.1
	社会的事象についての知識・理解	65.6	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

★指導の工夫と改善

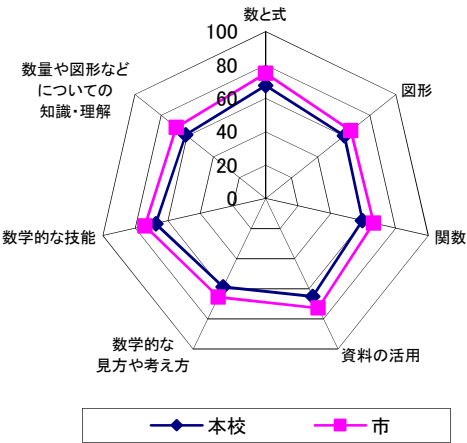
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	平均正答率が他の領域よりも低い。 ●昨年と比較すると正答率が低い。 ●全体的に地理的分野での知識・理解を含めた学習を行うことが課題である。 ●特に世界の諸地域のエネルギーに関する問題が低い。また、エネルギーの問題でも複数の資料を基に環境問題について考察し、表現する問題が特に市よりも低い。	・地図を利用し、地域による違いや特色の確認を行うとともに、1つの資料だけでなく、複数の資料を活用し、そこからわかることについて考察する指導を積極的に取り入れる。 ・資料の読み取りは行っているが地理的事象に関する読み取りが少ないため、今後、授業の復習で取り入れていく。
歴史的分野	平均正答率は地理よりも高いが公民よりは低い。 ●昨年と比較すると正答率が低い。 ○近世の日本については、鉄砲の伝来や宗教改革など平均正答率が市の平均を上回っており、知識の活用もできている。 ●古代までの日本についての知識・理解が不足している。	・古代の日本、1年生での既習内容の理解が不十分なので授業で復習を織り交ぜながらやっていくとともに、単元ごとの小テストを実施していく。 ・地理同様、複数の資料からの読み取りができていないため、1つ1つの資料からの読み取りを丁寧に行い、それらを総合して読み取る作業をできるだけ多く、グループ学習を取り入れながら行っていく。
公民的分野	平均正答率が3つの領域の中で最も高い。 ○昨年と比較すると、昨年度よりも市の平均は下がっているが、本校の平均は上がっている。 ○裁判の仕組みや地方自治の仕組みは市の平均より上回っている。 ●憲法改正の手続きについて、市の平均も低いが本校の平均も低い。	・資料の活用が比較的良好にできている。公民的分野では数多くの課題解決学習をグループで行い、意見を発表する機会を多く設けてきた。その成果が数字に表れている。今後も資料や課題をもとに、話し合いを行う授業を増やしていきたい。 ・本時のまとめを必ず行い、生徒が自分の言葉で書くことを実践してきた成果なので今後も継続して行う。

H30年度 宇都宮市立若松原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.8	75.0	70.3
	図形	60.5	65.2	63.4
	関数	59.6	66.4	51.5
	資料の活用	65.1	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	58.7	65.5	55.1
	数学的な技能	67.5	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	61.2	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

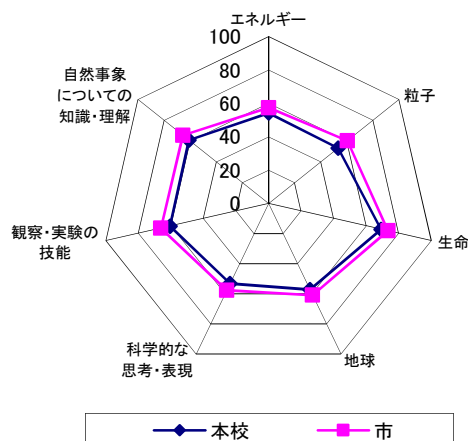
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●平均正答率は、市の平均より7ポイント程低い。特に、分母の有理化や解の公式の適用、2次方程式の立式の正答率が低くなっている。理解の遅い生徒には、机間指導による個別指導等に対応してきたが、理解の定着までには至っていない。	・基本的な計算の技能がなかなか定着しない生徒に対しての個別指導を充実させ、更に全体の底上げを図っていく。また、過去に学習した内容を忘れがちなので、授業の中で既習の内容を取り扱う。また、家庭学習の充実を図っていく。
図形	●平均正答率は、市の平均より4～5ポイント程低い。特に、図形の移動の正答率が低い。 ○立体の辺や面の位置関係の読み取りの正答率は、市の平均を上回っている。	・最初から図を与えずに問題文のみを与え、自分でイメージして正確な図をかき、必要な情報を図に書き込み、問題を解決する等の地道な作業を繰り返し指導していく。また、具体物の操作活動を数多く取り入れ、図形のイメージづくりに役立てる。
関数	●平均正答率は、市の平均より6～7ポイント程低い。特に、関数関係を正しく読み取って、グラフを考える問題の正答率が低い。グラフについては、表や式をもとに、座標に一つ一つ点を取りながら指導してきたが、グラフの読み取り方が定着していない。	・関数の指導については、表、式、グラフの3つを有効に活用して問題解決に当たらせていく必要がある。特に、グラフを頭の中でしっかりイメージできないと問題の理解は難しいので、グラフをかかせる時間を十分に確保して指導に当たる。
資料の活用	●平均正答率は、市の平均より7～8ポイント程低い。特に、資料の傾向を読み取る問題の正答率が低い。資料のどの部分に着目して問題を解決していったらよいかという問題解決の糸口が見つけられない生徒が多い。	・資料の活用は、他の分野で培った総合力が試される分野である。特に、簡潔で目的に合った表やグラフの作成能力が問われるので、関数の時間を中心に、表やグラフを作成する時間を十分に確保するとともに、参考例を提示するなど、有効に資料を活用できる力を育てる。

H30年度 宇都宮市立若松原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	54.2	57.5	51.6
	粒子	53.2	60.3	53.0
	生命	69.1	73.4	67.9
	地球	57.2	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	53.3	57.7	51.5
	観察・実験の技能	60.6	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	61.0	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

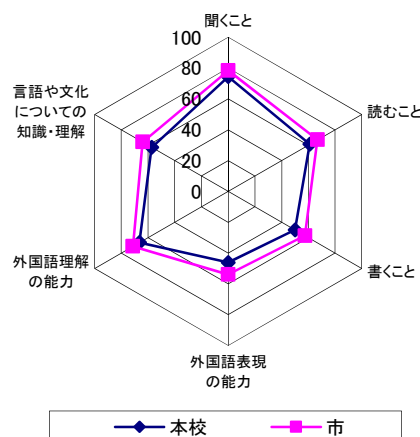
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市平均は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。また、基本的な語句を答える設問では、参考値と比較すると高い正答率がある。 ●エネルギーの中で、「電熱線の発熱量を求める」「仕事率の式を求める」などの項目で正答率が参考値よりも下回る。目に見えないものを捉える際、計算によって数値化することにつまずきを感じている生徒が多い。	・目に見えない概念を実験等を通して体験することで、その現象が起こる理由を理解できるようにする。 ・繰り返し学習できるように分野を関連付けながら授業で復習ができるように行う。 ・数値化するときの原理などを授業を通して理解できるようにする。
粒子	○宇都宮市の平均は下回るものの、「物質のなりたち」については、参考値の正答率より上回る設問が多い。 ●粒子の中で「水溶液とイオン」の項目で正答率が参考値よりも下回る。イオン式や化学式の知識が定着していない傾向が見られた。	・イオンの特徴や性質を指導していく。また、イオンにある共通点を踏まえて、少しでも覚えやすい指導を心がける。また、小テストをこまめに実施して、定着するよう努める。
生命	○市平均は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。生徒の関心・意欲も非常に高く、自ら考えて学ぶことができています。 ●「遺伝の規則性と遺伝子」の項目で、市平均および参考値の正答率を下回る解答が多くみられた。種子の遺伝子の組み合わせについて理解できていない生徒が見られる。	・生命分野にさらに興味を持たせるために、実物を見ることはもちろん、実際に見ることができないものは、画像や動画を効果的に使用し、今以上の興味・関心が湧くような授業にする。また、遺伝子の組み合わせを説明する際にも利用していく。
地球	○参考値とほぼ同程度の結果となった。我々の身近に存在する現象には非常に興味深く学習に取り組んでいる。 ●「火山岩のでき方」の項目で正答率が参考値よりも下回る。どのようにして火山岩が生成されるかを理解できていない生徒が見られる。	・地球分野にさらに興味を持たせるために、必要な知識を授業を通して伝えていく。地球環境等にも関心を持たせるような授業を展開していくために教材教具の研究を引き続き行っていく。

H30年度 宇都宮市立若松原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	74.4	78.4	72.9
	読むこと	61.1	66.9	63.2
	書くこと	50.0	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	46.1	54.0	51.1
	外国語理解の能力	66.4	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	57.2	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○「聞くこと」の正答率は74.4%で、参考値との比較で+1.5ポイントであった。 ●英文の要点を聞き取る問題において、スピーチの内容を聞き取る問題は正答率が78.1%で、市の正答率より2ポイント低い。 ●対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題では、正答率は7割弱である。	・積極的に英語を聞きたろうとする態度は身につけている。聞く力を高めるために、授業では多くの英語を使いながら進めてきた。ALTを活用し、生の英語を聞く機会をできるだけ増やした。 ・まとまりのある英文を聞いて要点を聞き取ったり、必要な情報を正確に聞き取ったりする力を高めることが大切である。 ・日頃の授業の中で、さまざまな場面での対話活動を継続し、質問に対する返答の仕方をしっかり身に付けさせる。
読むこと	●読むことの正答率は61.1%で、参考値との比較で-2.1ポイントであった。 ●「語法・語形の知識・理解」に関する問題では、助動詞の問題の正答率は78.6%で、市の正答率より1.4ポイント低い。 ●長文の読み取りでは、内容を把握する問題の正答率は市より3ポイント低い。	・読み取りのポイントを与えたり、手がかりとなる表現をインプットしながら英文を読む活動を継続してきた。 ・語彙の力が不足している生徒も見られる。 ・日頃の授業で長い文章を読み取る活動を継続し、概要や要点を捉える力を身に付けさせる。
書くこと	●書くことの正答率は50%で、参考値より-8.4ポイントであった。 ○「語彙の知識・理解」では単語を正しく書けるかどうかを問う問題で、市の正答率を上回っているものもある。 ○「3文以上の英作文」では、まとまりのある英語で記述する問題の正答率は61.7%で、全国の正答率を5ポイント上回っている。	・書きやすいテーマを選び、まとまりのある文章を書く活動を継続して指導してきた。モデル文を提示することにより、自分なりのアレンジを加えて英文を書ける生徒が増えた。 ・授業では、書いた文章をALTに添削してもらうことで、生徒は意欲的に書く活動に取り組めた。場面設定を工夫して、対話や文章を書く活動を継続していく。

宇都宮市立若松原中学校

H30年度 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・規則正しい生活習慣と学習規律の確立	・家庭科や保健体育、学級活動の授業や食育、集会の機会を通し、望ましい生活習慣と学習の関わりを伝える。 ・学習規律に関する目標を毎月提示し、職員全員で重点的に指導する。	・「毎日朝食を食べていますか」の調査結果が4月(89.6%)から12月(93.6%)に向上した。(＋4.0)。 ・「授業の始まりには席についている」(94.6%)、「学習用具は忘れずに持ってきている」(93.8%)と満足できる結果である。
・家庭学習への主体的な取組を促す	・家庭学習ノートを毎日提出させ、主体的な学びを身に付けさせる。また、生徒会主催のスタディーウィークを活用し家庭学習の習慣化を図る。	・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の肯定的割合が、2年12月(47.0%)から3年12月(61.6%)で14.6ポイント向上した。 ・定期テスト前後の家庭学習提出率が、82.1%(1～3年)で、満足できる結果となった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・昨年度の課題であった知識・技能の習得に関しては、基本問題の結果が昨年度から伸びていることから、成果を上げることができたと考えられる。今後は、反復学習に力を入れ、知識・技能の定着度をより高めていく。また、探究型の授業実践を継続し、併せて思考力、判断力、表現力の向上を進めていく。

・学習状況調査の結果から、成績上位層と中位および下位層との学力格差が大きいことが明らかとなった。これまでも、学力向上プロジェクトによる放課後学習や学習相談を実施するなど対策に努めてきたが、今後は地域未来塾（放課後学習支援）を立ち上げ、さらに積極的な学習支援を実施していく。